

『#リバー』（奥田英朗著）を読んだ。著者は雑誌編集者、プランナー、コピーライターを経て、作家デビュー。『邪魔』で大藪春彦賞、『空中ブランコ』で直木賞、『家日和』で柴田錬三郎賞、『オリンピックの身代金』で吉川英治文学賞を受賞。

群馬県桐生市と栃木県足利市を流れる渡良瀬川の河川敷で相次いで女性の死体が発見される。十年前の未解決連続殺人事件と酷似した手口が、街を凍らせていく。十年を隔てて起こした連続殺人なのか。それとも模倣犯なのか。

浮かび上がった三人の容疑者たち。一人は、かつて容疑をかけられた男であり、覚せい剤中毒者で何をするかわからない。誰からもこの世からいなくなって欲しいと思われている。二人目は、殺人現場にトラックで出沒した痕跡を残す季節工で、大男で柔道ができて、行為中に女性の首を絞める癖がある。最後の一人は、市会議員の息子で引きこもりであるが、毎夜、車で出かけてゆく。後に多重人格者と判明する。

現役の群馬県警と栃木県警の刑事たち。取り調べを担当した元刑事。娘を殺され、執念深く犯人捜しを続ける写真館を営む父親。特ダネを得ようと奮闘する若手新聞女性記者。多重人格者に詳しい一風変わった犯罪心理学者。容疑者と深く関わるスナックのママたち。人間の業と情を散りばめながら進行する六百頁を超える群像劇である。
果たして誰が犯人なのか。

主な連続殺人事件

1. 宮崎勤事件（1988～1989 年）
 - ・被害者： 幼女 4 名（4～7 歳）
 - ・特徴： 誘拐・殺害後に遺体を切断、わいせつ行為を撮影。犯行声明を新聞社に送付。
 - ・社会的影響： 「オタク文化」への偏見が広がる契機となった。
2. 西口彰事件（1963～1964 年）
 - ・被害者： 5 名（全国を転々としながら殺害）
 - ・特徴： 弁護士や大学教授を装い金品を奪う。逃走中に全国を移動。
 - ・逮捕のきっかけ： 教戒師宅を訪れた際、娘がポスターと照合して通報。
3. 北九州監禁殺人事件（1996～2002 年）

- ・加害者：松永太と緒方純子
- ・特徴：洗脳・監禁・暴力により複数人を殺害。被害者に加害行為を強要。
- ・社会的影響：家庭内支配と心理的虐待の深刻さが浮き彫りに。

4. 秋葉原通り魔事件（2008 年）

- ・加害者：加藤智大
- ・被害者：7 名死亡、10 名負傷
- ・特徴：トラックで突入後、ナイフで無差別に刺傷。ネット掲示板に予告あり。
- ・死刑執行：2022 年。

5. 座間 9 人殺害事件（2017 年）

- ・加害者：白石隆浩
- ・特徴：自殺志願者を SNS で誘い、殺害後に遺体を遺棄。
- ・社会的影響：SNS の危険性と孤独・絶望感への社会的対応が問われた。

背景と共通点

- ・加害者の孤立・精神的問題：多くの事件で加害者は社会的孤立や精神疾患を抱えていた。
- ・被害者との関係性：無差別型（秋葉原・座間）と関係性型（北九州・西口）に分かれる。
- ・社会的反響：少年法改正（神戸事件）、ネット規制強化（座間事件）など、制度改革に繋がるケースも。

評価：★★★★☆